SHINCLUB 158

(株)辰　東京都渋谷区渋谷3-8-10　JS渋谷ビル5F　tel/03-3486-1570　fax/03-3486-1450

今月のトーク/monthly talk　「ＧＬＨ」　撮影：鈴木　悠

建築との出会い

約 20 年前のこと。ワイン・インポーターの森様は、高輪のご自宅近くに売りに出た物件が気になって仕方がありませんでした。山小屋のように三角形に切れ込んだ屋根と打ち放しのコンクリートの外壁。45 度の角度で連なるガラス壁面は西側の眺望を確保して建物に奥行きと変化を与えています。購入され、自身の会社「odex japan」の事務所として使うことにしました。

ビートルズが来日した 1966 年、若かった森様はシベリアからヨーロッパに旅立ち、その後、ドイツ、デンマーク、イギリスへと放浪の旅を続けました。そしてさまざまな文化を吸収しながら、日本にイギリスの新しいオーディオを紹介する仕事を始められました。1972 年には、フランスワインとイギリスのオーディオ製品の輸入を目的として「odex」を設立、28 歳のときでした。

その後、フランス、イタリアなど、世界各地を歴訪しながら、ビジネスを発展させ、前述の通り憧れのバンガローを高輪に見つけたのでした。1 日中、日光浴が出来るサンデッキ、沈みゆく夕陽を楽しめる大きなガラス窓の部屋。事務所としてだけではなく、ライフスタイルを紹介するコンセプトショップとして、レストラン経営者などを集めたセミナーやワークショップを開いています。

その建物が、建築家鈴木恂氏（早稲田大学名誉教授）の作品「NAH」だと知ったのは、ある学生が「見学をさせてほしい」と訪れたことがきっかけでした。

建物は、当時でもすでに竣工後かなりの年月が経過しており、メンテナンスが必要な状況だったため、森様はすぐに鈴木恂氏の事務所「AMS」に連絡、それから新しいオーナーと設計者の交流が始まりました。

「自分の足で世界を歩き、自分の感覚にあったものだけを輸入し、建物も同様に、ブランドではなく自身の感性で購入された森さんと、世界各地へ赴き、『メキシコスケッチ』など『実測』という手法に基づく著作も多い鈴木先生は、互いに通じるものを感じ取られているようです。ワインの世界で実測を実行されているのが森さんだと感じられるのです」と「AMS Architects」代表の内木博喜氏は、お二人に敬意の念を寄せています。

「常に『本質がどこにあるか』というお互いの価値観を、お施主さんと設計者が理解し合っている。建物にとってこんなに幸せなことはありません。最近、建築家の考え方に共感し、全面的に信頼して設計を依頼されるケースは少なくなっていますが、森さんは理想的な方ですね」と内木氏。

改修工事の折から「次に建てる新築では、ぜひ鈴木先生に設計をお願いしたい」と話していた森様の思いが、今回隣地を購入する機会を得て、上記写真の「GLH」で実現しました。 既存の建物で行っていたワークショップを、さらに一般の方向けにも広く展開していく予定です。

新たな建物の名前「GLH」は「glass house 」という意味です。

「odex　japan」の 2013 年のキーワードは「ワインの世界をもっとやさしく、簡単に、『glass　wine』の odex、『house wine』の odex」とのことです。

この odex のコンセプトに賛同した各国の生産者の開発による和のワインとイタリアを代表するワイン生産者、リッカルド・コタレッラとの開発による「phoenix nippon」の 2 つのシリーズで、このたび全 8 種類のオリジナルワイン「glass house takanawa」が生まれました。

そして"glass house" と言えば、森様の大好きなビリー・ジョエルのアルバム。 音楽ももちろん、森様のライフスタイルにはなくてはならないもののようです。

ＧＬＨ　（odex glass house Ⅱ）

47 年前の建物と協調する、アトリエスペース

ワインインポーターの事務所に隣接して新たに建てられたアトリエスペース。それほど大きくはないこの建物は、既存の「odex glass house Ⅰ」同様、庭やデッキで生み出された広い空間により、高台のこの地域にある種の抜けを作っている。もともと既存のアプローチであった北側の路地空間が、新旧２つのスペースのメインアプローチとなって、そこに並行して走る長いデッキが東西の抜けをつくり、人々を呼び込み集う、光と風のスペースを生み出している。

既存建築の再生、孤立しがちな都市空間の中に新たに良質な環境を生み出していく可能性を、この計画は包含している。

１ 階はアトリエスペースとして利用、２ 階は、オーナーの「哲学の間」として、座禅、瞑想など個人使用の自由な空間を想定している。

シンプルな構造だが、建物内部でも細部にわたって換気や採光に配慮した工夫を施している。

（内木博喜氏　談）

構造：木造
規模：地上２階
設計：鈴木恂
　＋AMS Architects
竣工：2013 年４月
施工担当：讃井
撮影：アック東京

「NAH」（odex glass house Ⅰ）
構造：RC 造＋木造
設計：鈴木恂＋AMS Architects
竣工：1967 年１月
もともと、専用住宅として建てられたもの。45 度の角度で連続するアルコーブ空間、庭のデッキが建物と外部の一体化を実現している。1994 年、ワインインポーター odex japan が購入。1997 年には ２ 年間の限定でコンセプトショップをオープンし、その後事務所として、現在も使用中。
2007 年、辰で大規模改修工事を請け負う。

①正面外観。壁面はほとんどガラスで構成されるオープンな建物②東側より臨む③アプローチデッキをはさんで「glass house Ⅰ」と自由に行き来できる④1 階アトリエスペース。東側前面道路に対しては生垣を設けている⑤2 階は２部屋を仕切って使うことも可能。「glass house Ⅰ」、さらに西側の遠景を開口部から見渡すことができる

520　蔵

和の趣のゲストハウス

海外からの来客のためのゲストルームを想定して建てられた住宅。外観は昔ながらの「蔵」そのもの。遊び心あふれた建物は、部分的に格天井を入れたり、障子など建具や家具に和の趣を取り込みながら、ゆとりのある空間を作り出している。２階は２つの寝室と収納部屋、洗面所が設けられ、ゲストもゆっくりと過ごすことが出来る。当面は建て主がお住まいになられる予定。

（編集部）

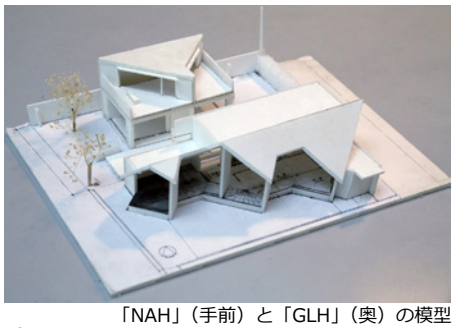
構造：RC 造　規模：地上２階
用途：専用住宅
設計・辰（大森伸一）
竣工：201３年３月
施工担当：綿貫
撮影：アック東京

①全景。まさに蔵のような建物に石畳のアプローチが伸び、シンプルないちょうのベンチが２つ置かれている。建物右に玄関、さらに竹塀の路地が奥の坪庭に通じる②1 階ダイニングから、鉄扉を開けて前庭を臨む。前の家の植栽が目に美しい③1 階リビングダイニング。左側の障子の裏側が収納スペース。正面奥左側に洗面所、浴室④和風の坪庭を眺めながら、ゆったりとした気分にさせてくれる浴室

恩師に学んだ、建築と向き合う姿勢

AMS Architects 代表取締役　内木博喜

内木博喜氏　撮影：アック東京



「NAH」（手前）と「GLH」（奥）の模型

Hiroki Naiki

今月は、「GLH」を設計された「鈴木恂＋AMA　Architects 」の代表取締役、内木博喜氏にお話を伺います。弊社では、「スタジオエビス」や「KOH8608」「HAH7710」「SIH7311」などの改修工事を手がけさせていただいています。

―鈴木恂先生の事務所に入られたきっかけを教えていただけますか。
内木：もともと吉阪隆正先生に惹かれて、早稲田に行きたかったのですが、1980 年に亡くなられた後、そのまな弟子である鈴木恂先生の研究室に入り込みました。そして卒業後に、AMS に入所。当時は、住宅を担当したくて入ったのですが、学校や研修センターなど官庁物件を連続して担当しました。その後、住宅も何件かやらせていただきましたが、昔の先生の作品の増改築、改修工事なども多く担当し、そのほとんどの施工は辰にやってもらっていますね。

過去の作品を見ていると、原形が作られたとき、その建物がどう変化するか、先まで見越して時間を設計に盛り込んだ建物が少なくありません。実際の設計の中でもそういうディスカッションにかなりの時間を費やします。例えば、スタジオエビスでもそうでしたが、予想される変化や新たに生まれてくる要求にどう対応し、それを享受するのか―そういう設計姿勢を感じます。GA ギャラリーでも、元々駐車場などの外部空間だった 1 階の部分が、今は内部化されてギャラリーになっていますが、建築のある骨格が作られて、その後展開していく―そういう変化への予測と可能性に目が向けられています。

―設計事務所としてあとを継ぐ仕事も、魅力的な建物が多いわけですね。
内木：そうです。学ぶところが多いですね。設計の中に「建築とは未完であり、予測できない変化を続ける。その変化を建築の骨格がうけとめられるかどうか」という視点が必ず含まれています。１つ１つの作品に深く触れると、必ず新しい発見があります。

―例えば「NAH」の場合はいかがでしょうか。
内木：「NAH」の場合は RC 造と木造の混構造ですが、建物は木造の部分がかかわってくると、かなりこまめに手を入れてあげないと長く維持できないものです。RC 造は強靭なだけに、「あまり手をかけなくてもいい」という意識が住まい手にも生まれがちで、メンテナンスのスパンもつい長くなってしまう。すると建物の劣化が進んでしまいます。この建物もほぼ半世紀経っており、今回も一部腐食部分の取替をしたり、塗装をしたりと手を入れましたが、そうして建物はまた永らえていく。逆に木造であることが建物の維持に向けての意識を掘り起こすということもあると認識しました。
―確かに今、日本全体でインフラ整備の見直しが問われていますね。道路や橋など土木だけでなく、地方の公共の建物など、維持管理にも予算がつかなくて、悲惨な状態になっているものも見かけます。
内木：建築は、人間の身体のように自分で再生しませんからね。手をつけなければ、古くなる一方です。そういった意味では柔らかで柔軟性のある木造建築の持っている特質は、そのような状態を回避するための方法論として役立つ可能性があるのかもしれません。

―「JOH」は鈴木恂先生の代表作品（1966 年竣工）ですが、資料（都市住宅 7103）の参考写真によると、いくつも同じ家が並んで見えますが、これは集合住宅となったのですか？
内木：いいえ、それはモンタージュですね。「KAH」や「GAH」といった住宅でも同様なモンタージュをつくられています。鈴木先生は集落の実測をされていますが、1 つの住宅を作ったときに、その住宅の骨格が都市の中で集合し、集落となるような可能性を持ち得るかどうか、それがスタディされています。最近は、窓をずらしてくれなどと隣家に言われることもあるようですが、それは、都市住宅として集合していく空間の骨格を持っていないと言えます。このアトリエも、小さな敷地の中で隣地に対して、本体構造とはずらしたいくつかの壁を設けることで、お互いの視線を遮りながら、通風や採光を可能にしています。

―AMS は今後はどういう方向に進むのでしょう？
内木:AMS という名称は､組織的には｢I am｣の｢am｣が集合して｢am's｣(＝AMS)、すなわち個人の集合体であることを意味しています。鈴木恂先生を含む我々全メンバーが、イメージとアイディア、経験を出し合い、議論しながら設計する。その中でシンプルであっても、深さと厚みを持つ am' s としての建築をつくっていきたいと考えています。東日本大震災を経験して以来、我々建築家は建築に対して、どういう姿勢で向き合っていくかが問われています。強度だけではなく､1つ1つの出会いの中で､何が求められ､その向かうべき本質はどこにあるのか。それを問う中で、長く時間に耐え得るような建築をつくり続けていきたい。今回の「GLH」の計画は、その 1 つの回答であったと思います。

―本日はありがとうございました。

「建築は予測できない変化を続ける、その変化を受け止められる骨格が必要です」

内木博喜

1959 年　岐阜県生まれ
1982 年　名城大学理工学部建築学科卒業
1985 年　早稲田大学芸術学校建築設計科卒業
2003 年　早稲田大学大学院修士課程終了
1985 年　鈴木恂建築研究所（現：鈴木恂＋AMS Architects）入所
　　現在、AMS Architects 代表取締役、一級建築士
1999 年～早稲田大学芸術学校講師　2001 年～ 04 年名城大学講師
主な担当作品
「三春中郷学校」「大宮市総合研修センター（プロポーザルコンペ１等入賞）」「都幾川村文化体育センター（プロポーザルコンペ１等入賞）」「早稲田大学理工学総合研究センター（日本建築学会作品選奨受賞）」、「東京家政大学教育会館・小講堂・８号館」「住宅ＵＲＨ」「集合住宅ＬｉＦ」など

神宮前のアトリエにて。地下１階は天井の高さが3.6mもあり、数々の模型が部屋に飾られていた

「表参道けやきビル」現場レポート その２　工事中 内覧会　　４月 24 日

さる、4 月 24 日、「表参道けやきビル」（意匠設計：團紀彦建築設計事務所、構造設計：オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド）で、クライアント様、設計事務所様のご協力により、工事中の内覧会を実施させていただきました。

ご案内は、工事中のこともあり、主に設計事務所様、グループ内の希望者様に限定させていただきました。

作業内容は、以下の通りです。

・6 階梁、5 階柱の鉄骨組立、5 階建込
・5 階柱の配筋、型枠
・1 階型枠解体

当日は、小雨模様ながら、特に見学には支障なく、全体で 50 人の来訪者を迎えました。

まず 6 階にご案内して、柱の組立状況、段取りについて営業部からご説明し、質疑応答を受け、2 階に下りてからは、PC 上で CG 画面や写真などを用いて、工事部担当者より説明を行いました。

この建物は、地上 8 階建ですが、通常の建物と異なり、136 本の SRC 造の独立柱の形がすべて異なるため杉板化粧型枠の転用がききません。そのため、スチロール＋杉板の特殊型枠を３D 図面で設計、製作して組み立て、コンクリートを打ち込んでいます。型枠については、また次号以降詳しくご紹介する予定です。

なお 5 月 18 日（土）に、第 2 回内覧会を行います。6 階、7 階の鉄骨組立や配筋、柱型枠、2 階型枠解体の作業を同様にご紹介していきます。

（報告：営業部　畠中広隆）

①2 階室内から、外周柱を臨む。型枠のスチロールがまだ残っている

②5 階の建込状況を営業部課長畠中より説明。鉄骨は外周部の柱と梁しかなく、仮設材で中央の仮設柱に固定。仮設柱は 3 フロアごとに盛替えられる

③１階の柱の特殊型枠のスチロールを削ったところ。杉板はまだ残っている

④5 階の柱の鉄骨のジョイント部分。4 階までは無垢の丸棒を溶接してジョイントにしているが、5 階より上は仮設材で継ぐ

⑤ニクロム線の熱線を使って、二人がかりで型枠のスチロールを溶かしはがしていく

完成予想図 CG (夜景パース)

⑥2 階の休憩コーナーで。

⑦モニターで、CG 図面を示しながら説明をする、工事担当課長の夏井

「AOYAMA346プロジェクト新築工事」お清めの会　4月18日

店舗・事務所・診療所等からなる低層複合商業施設です。

構造：S 造
規模：地上 2 階、地下 1 階
用途：店舗・事務所
設計：佐々木設計事務所 / Sasaki Architecture
完成予定：2013 年 10 月

「ZENグループの役員も内覧会訪問　4月24日」

上記内覧会には、ZEN ホールディングス（以下、ZENHD）の役員の皆様も訪ねて下さいました。右から、ZENHD 小林憲司取締役、新日本有限責任監査法人善方正義氏、辰 森村和男社長、ZENHD 望月真氏、ZENHD 太田紘取締役の皆様です。

辰では社長自ら、ご案内役を務めました。

編集後記

・「けやきビル」内覧会は、たくさんの設計事務所の方々がお見えになりました。このような機会の提供を喜んでくださると共に、特殊型枠の工事への理解を深められ、励ましのお言葉も賜りました。ありがとうございました。

(株)辰 通信　Vol.158　発行日　2013年5月10日　　編集人：松村典子　発行人：森村和男
東京都渋谷区渋谷3-8-10　TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450　E-mail : daihyo@esna.co.jp　URL :htt p ://www.esna.co.jp